

1. 現職宮司宅の祭壇

いわば神道（神様）が仏教（仏様）を包摂している事例である。

（1）宮司の生田家

羽州街道徒歩スルーハイクの青森向け途中、2014(平成26)年9月17日(水)山形県村山市土生田地内を通りか掛った際に知ったお方である。自宅の祭壇は図-37のとおりであった。初めてお目に掛かったが故に余りのすばらしさに驚愕してしまった。まずは、大寶院生田家の事からである。代々が神職で今の当主は第21代目の**現職の神主さん**である。屋號は法印様（ホーエンサマ）と称されていた。敷地内に昔から利用して来た水垢離の溜地の跡があるが、その傍の建物の外壁にある説明案内版の要点を抜き出して見る。

・・・室町時代(1393年～)に羽黒山（家紋三つ巴）・出羽三山系の神道として開祖する。神仏習合の傾向が一層強まる中で、天台宗（最澄・伝教大師）^{ごんのだいそうづ}権大僧都と、真言宗（空海・弘法大師）大越家と共に神仏儀礼一緒に役職を果たした。・・・



図-37

620年以上もの間、代々、家系の歴史を絶やさず積み重ねて来たのである。祭壇はまさに本物の神仏習合の姿である。家中の祭壇の間に入ると、まずは歴代引き継いで来た黒ずんだ檜作りの鳥居がある。全体の造りも彫刻もシンプルである。中央祭壇（純神式）には、向かって左に大日如来坐像（同図右端の

大日如来坐像やたのかみは生田さんが撮影)、右側に神鏡（八咫鏡・円鏡）を祀っている。両者に仕切りはない。いずれも黒ずんでいる。おそらく、護摩焚きの影響ではないかと思う。左端には歴代祖先の仏式仏壇、右端には歴代祖先の神式仏殿を安置している。まさに神仏渾然一体の祀り方である。祀り方の全体の調和は素晴らしいものがある。

(2) 宮司の瀧本家

吾が町内会にある「(宗) 月山神社」(無住)の宮司をされている山形市成沢の瀧本さん宅の祭壇についてである。図-38のとおりで、前出生田さんの祭壇と類似の造りである。中央に神様を祀り、挟むように左右両側に仏教世界の仏像を安置せしめている。向かって右側には不動明王、左側には毘沙門天像で、隣接する右端にはご先祖様の神式仏壇である。



図-38

.....

お二人とも神社本庁公認の現職の神職・宮司である、神仏渾然一体の祀り方である。まさに祀り方の全体の調和は素晴らしいものがある、大和民族DNAだいわの生き写しである。

(end)